

派遣結果報告

1 沖縄県久米島町における移住・定住対策について

(1) 日時 令和元年9月2日(月) 10:30~11:30

(2) 対応者 久米島町

プロジェクト推進課 課長 中村 幸雄

企画財政課 企画班 班長 古堅 宗治

” ” 主任 島袋 陽子

(3) 調査概要

久米島町における人口は1985年に10,238人であったが2015年には8,158人まで減少、これは毎年約100人が減っていることとなり、同町では第2次久米島総合計画の中でこれまで情報窓口が点在していた事による挫折や失敗を解決するために、HPによる情報提供や窓口の一元化などの体制(島暮らしコンシェルジュ)を整え移住者が島での暮らしを十分に理解・納得した上で島暮らしを始める事で移住者を増やしてきた。発足からの3年4ヶ月で主に東京・大阪・福岡から約480件の移住相談を受け、これまで92名の移住者を受けてきた。島内での仕事や、教育・医療の問題で離島を余儀なくされた移住者もいるが、本事業による移住・定住者は一定の成果を上げてきたと言える。

コンシェルジュを務めるスタッフは地域おこし協力隊として意欲的な活動をしており、活動終了後は島内で仕事を見つけ定住するという、昨今の地域おこし協力隊における任期終了後の定住率の低さの新たな切り口としても注目される場所である。

本県においても今後の移住・定住政策として大いに参考にすべきと思う。(詳細は別添資料参照)

2 海洋深層水の利活用について

(1) 日時 令和元年9月2日(月)

13:30~14:30 沖縄県海洋深層水研究所

14:45~15:30 久米島海洋深層水開発株式会社

(2) 対応者 沖縄県海洋深層水研究所 日比野 時子

久米島海洋深層水開発株式会社 場長 仲道 司

(3) 調査概要

2000年より久米島では海洋深層水の有効活用事業を始めた。水深約600メートルの海底から1日約13,000トンの海洋深層水を汲み上げ様々な産業に活用している。

海洋深層水の特徴である低温性に着目し、平均22度~30度の暖かい表層海水と年

間を通して8度前後の海洋深層水の温度差を利用し世界唯一となる出力100ワット級の海洋温度差発電所を稼働、また窒素、リン、ケイ酸といった栄養分を含む海洋深層水を使って全国トップクラスを誇るクルマエビと海ぶどうを大量養殖するなど、いずれも海洋深層水無くしては実現しなかった産業を生み出している。更には、野菜栽培、生ガキ養殖、海洋深層水を原料とした化粧品などその裾野は広く、自立型コミュニティモデル「久米島モデル」と命名し世界の島嶼（とうしょ）地域に対する実証モデルと位置づけているという。海洋深層水という地域資源を最大限に活用し新たな産業を起し、地域の雇用創出に貢献している離島の活力を目の当たりし、これらの視点と取り組みは本県経済の活性化のためにも大いに参考にすべきである。（詳細は別添資料参照）

沖縄県海洋深層水研究所



久米島海洋深層水開発株式会社

